

ラクテック® D 輸液

(5%ブドウ糖加乳酸リゲル液)

貯法：室温保存

使用期限：容器に表示の使用期限内に使用すること。

使用時及び保管：取扱い上の注意の項参照

注) 注意－医師等の処方せんにより使用すること

日本標準商品分類番号	87 3319
承認番号	22000AMX00807
薬価収載	2008年6月
販売開始	1990年10月

Lactec® D Injection

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

副作用が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

種類/頻度	頻度不明
過敏症	紅斑、蕁麻疹、そう痒感
大量・急速投与 ^{注1)}	肺水腫、脳浮腫、末梢の浮腫

注1) 第一次再評価結果その14、1978年

3. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので、投与速度を緩徐にし、減量するなど注意すること。

4. 適用上の注意

- (1) 調製時：①本剤はカルシウム塩を含有するため、ケン酸加血液と混合すると凝血を起こすおそれがあるので注意すること。
②リン酸イオン及び炭酸イオンと沈殿を生じるので、リン酸塩又は炭酸塩を含む製剤と配合しないこと。
- (2) 投与前：①投与に際しては、感染に対する配慮をすること（患者の皮膚や器具消毒）。
②寒冷期には体温程度に温めて使用すること。
③開封後直ちに使用し、残液は決して使用しないこと。
- (3) 投与時：ゆっくり静脈内に投与すること。

※【葉効薬理】

本剤は、細胞外液の電解質組成に近似しており、適切な水分及び電解質の補給ができる。

本剤に含まれるL-乳酸ナトリウムは、体内で代謝されてHCO₃⁻となり、アシドーシスを補正する。

一方、ブドウ糖は生体に存在する最も普遍的な糖で、術中・術後などのカロリー補給として優れている。

【取扱い上の注意】

- (1) 安定性試験
最終包装製品を用いた長期保存試験（室温、3年間）の結果、通常の市場流通下において3年間安定であることが確認された¹⁾。
- (2) 注射針はゴム栓の○印にまっすぐ刺すこと。斜めに刺すと注射針が容器頸部を貫通し、液漏れの原因となることがある。
- (3) ソフトバッグ製品は、原則として連結管を用いたタンデム方式による投与はできない。
- (4) 包装内に水滴が認められるものや内容液が着色又は混濁しているものは使用しないこと。
- (5) 容器の液目盛りはおよその目安として使用すること。

【包装】

ラクテックD輸液 500mL 20袋 ソフトバッグ入り

※【組成・性状】

1. 組成

本剤は1容器中に次の成分を含有する注射液である。

成 分	500mL 中
塩化カルシウム水和物	0.1 g
塩化カリウム	0.15g
塩化ナトリウム	3.0 g
L-乳酸ナトリウム	1.55g
ブドウ糖	25 g
熱 量	100kcal

電 解 質 濃 度 mEq/L				
Na ⁺	K ⁺	Ca ²⁺	Cl ⁻	L-Lactate ⁻
130	4	3	109	28

本剤は添加物として冰酢酸（pH調整剤）を含有する。

2. 製剤の性状

本剤は無色～微黄色澄明の注射液である。

pH 約4.9（製造直後の平均実測値）
3.5～6.5（規格値）

浸透圧比 約2（生理食塩液に対する比）

【効能・効果】

循環血液量及び組織間液の減少時における細胞外液の補給・補正

代謝性アシドーシスの補正

エネルギーの補給

【用法・用量】

通常成人、1回500～1000mLを点滴静注する。

投与速度は、通常成人ブドウ糖として1時間あたり0.5g/kg体重以下とする。

なお、年齢、症状、体重により適宜増減する。

※※【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- (1) 腎不全のある患者 [水分、電解質の過剰投与に陥りやすく、症状が悪化するおそれがある。]
- (2) 心不全のある患者 [循環血液量を増すことから心臓に負担をかけ、症状が悪化するおそれがある。]
- (3) 重篤な肝障害のある患者 [水分、電解質代謝異常が悪化するおそれがある。]
- (4) 高張性脱水症の患者 [本症では水分補給が必要であり、電解質を含む本剤の投与により症状が悪化するおそれがある。]
- (5) 尿閉性尿路疾患により尿量が減少している患者 [水分、電解質の過負荷となり、症状が悪化するおそれがある。]
- (6) 糖尿病の患者 [ブドウ糖の組織への移行が抑制されているので、高血糖を生じ症状が悪化するおそれがある。]

【主要文献及び文献請求先】

主要文献

- 1) 品質統括部：社内資料（安定性試験）

文献請求先

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求ください。

株式会社大塚製薬工場 輸液DIセンター

〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-2

TEL : 0120-719-814

FAX : 03-5296-8400



販売提携 大塚製薬株式会社 東京都千代田区神田司町2-9

製造販売元 株式会社大塚製薬工場 徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115